

INFO

募集期間を延長しました!
香川でのサテライトオフィス開設を支援します

場所にとらわれないテレワークの活用や地方移住への関心が高まっています。県外から県内への企業や人の移転を促進するため、香川でのサテライトオフィス開設を支援します。

●サテライトオフィス拠点整備事業

テレワークに取り組む県外企業をターゲットにサテライトオフィスの拠点整備を行う民間事業者(個人事業者は除く)に対して、改修や整備などに要する経費を補助します。

対象経費 建物取得費・建物改修費・設備導入費など

補助率 対象経費の4分の1以内(上限額500万円)

募集期限 12月20日(月)まで

(問い合わせ先) 企業立地推進課 ☎ 087-832-3354

●テレワーク拡大による県内転入支援事業

県内でテレワークができるサテライトオフィスを開設する県外事業者に対し、改修や整備などに要する費用を補助します。

対象 県外に本社などを有する法人・個人事業主

条件 サテライトオフィスを開設し、3年以上継続する計画があること

対象経費 オフィス改修費・賃借料、備品等購入費・リース料、従業員の転居費用など

募集期限 2022年1月31日(月)まで

(問い合わせ先) 労働政策課 ☎ 087-832-3365

詳しくは、県ホームページをご覧ください。

サテライトオフィス
拠点整備事業



テレワーク拡大による
県内転入支援事業



(左から) 総務部長の岩崎俊彦さん、代表取締役の近澤裕明さん、常務取締役の馬場俊忠さん

電化社会のライフラインを 塗装技術で支える

電着塗装のニーズに
広く対応

発電所で発電した高圧の電気は電線を通じて送電され、各施設で受電して変圧したのち敷地内に分電されます。その過程で活躍するのが電気の受配電盤。家庭でいうブレーカーのようなもので、信号機や通信設備、ダム、電気自動車などさまざまな場所に使われます。日常的に目に触れませんが、電気を分けて配る機能でライフラインを支えるだけでなく、いざというときに「遮断」する事故防止の役目も果たす設備です。そのボディを造るに当たって重要な役割を担うのが、同社の塗装技術です。塗装には、ハケ塗り、ローラー、スプ

レー塗装、静電塗装といった「溶剤塗装」や「粉体塗装」などさまざまな方法がありますが、同社の強みは塗料が入った水の中で、被塗装物に電流を流し塗膜を形成し、熱硬化させる「電着塗装」。溶剤塗装や粉体塗装は重ね塗りで耐久性を上げますが、電着塗装は薄い塗膜で耐久性に優れ、さびや傷に強いことから、自動車メーカーの自社工場内で車の塗装などに使われることが多い技術です。

「現在四国に7基ある大型の電着塗装設備は、当社以外全てメーカーの自社ラインなんです。電着塗装を使いたい企業はありますが、大手メーカーの工場だと外部の依頼には応えられませんよね。そんな時に当

社が技術を提供し、他社の仕事の幅を広げるお手伝いをしたい。「一般ユーザー向けに低コストでメーカー品質を！」がモットーです。当社のような中小企業で大型のラインを持っているところは、全国的にも少ないと思えますよ」と、近澤さんは力を込めます。

電着塗装は、電気が流れる素材に限られ、塗料中に浸すので部分塗装ができない、カラーは1色のみなどの条件がありますが、それらに合致するニーズに広く応えています。

**100年後を見据えて
新しい挑戦をしたい**

「印刷機械は屋内で使いますが、電気設備は屋外なので塗装方法も模索する必要があります。それが電着塗装技術につながりました」と語る近澤さん。現在は、同社の板金部や調達部が独立した関連会社とともに、板金・塗装・スクリーン印刷まで手掛ける体制を築いています。「電気に取って代わるエネルギーがまだない以上、電気供給業はなくならないでしょうから、今後は『電気をどう使うか』に注目しています。新しいことに取り組むメーカーを、当社の技術でサポートするのが使命と言えますね」。

2022年に50期を迎え、翌年には坂出市に同社グループ会社の新しい工場も完成予定。近澤さんは「昭和30年代から始まった工場でのものづくり。取引業種を少しずつ成長産業にシフトし、平成にかけて一つのビジネススタイルが成熟しました。令和の時代は、次の手を考えたい」と意欲的。「一度成熟したものを崩すのはしんどいけど、100年先を見据えた勉強でもあります。父が四国に進出してきた時も、大変だったと思うんですよ。私もさらなる成長を目指して、新しいチャレンジをしなくては」と、熱く将来を見据えています。

「祖父は大阪の電車の塗装職人でした」と近澤さん。工場を持たない職人が当時ほとんどでしたが、昭和30年代から工場でのものづくりが主流となり、近澤さんの祖父も塗装会社を立ち上げて、印刷メーカーの下請けとして成長。その後、1970年に近澤さんの父が、メーカーの拠点移転に伴って香川に四国出張所を開設し、73年に独立して四国塗装工業となりました。

独立後は、コピー機などの台頭や通信革命により紙媒体の印刷物が減少し始める一方、丸亀市に拠点を持つ大手電機メーカーとの取引は順調で、電機関連の仕事が少しずつ増加。

「印刷機械は屋内で使いますが、電気設備は屋外なので塗装方法も模索する必要があります。それが電着塗装技術につながりました」と語る近澤さん。現在は、同社の板金部や調達部が独立した関連会社とともに、板金・塗装・スクリーン印刷まで手掛ける体制を築いています。「電気に取って代わるエネルギーがまだない以上、電気供給業はなくならないでしょうから、今後は『電気をどう使うか』に注目しています。新しいことに取り組むメーカーを、当社の技術でサポートするのが使命と言えますね」。

2022年に50期を迎え、翌年には坂出市に同社グループ会社の新しい工場も完成予定。近澤さんは「昭和30年代から始まった工場でのものづくり。取引業種を少しずつ成長産業にシフトし、平成にかけて一つのビジネススタイルが成熟しました。令和の時代は、次の手を考えたい」と意欲的。「一度成熟したものを崩すのはしんどいけど、100年先を見据えた勉強でもあります。父が四国に進出してきた時も、大変だったと思うんですよ。私もさらなる成長を目指して、新しいチャレンジをしなくては」と、熱く将来を見据えています。

問い合わせ先
 (公財)かがわ産業支援財団 取引支援課
 ☎087-868-9904



屋外の過酷な環境に耐える高度な塗装技術で電気の送配電を支え、私たちの日常生活を守る、香川のものづくり企業を紹介します。

四国塗装工業株式会社
 (住所) 丸亀市川西町北1698番地1
 (創業) 1973年
 ☎0877-24-0294
<http://www.shikokutosou.co.jp/>

